



追加型投信 / 国内 / 株式

ファンド情報提供資料  
データ基準日: 2019年11月29日優良日本株ファンド〈愛称:ちから株〉  
「運用状況と今後の見通し」

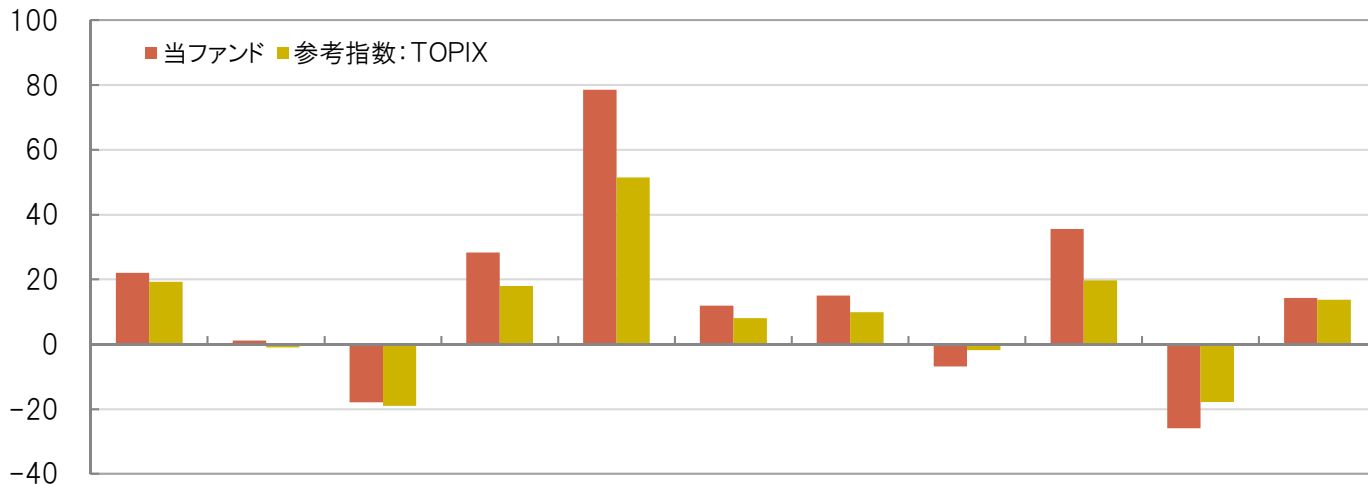
平素より、「優良日本株ファンド〈愛称:ちから株〉」をご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。  
国際政治の力関係が不安定な状況が続くなか、日本株式市場は上値が重い中でも底固い展開が続いています。  
このような環境下、当ファンドの運用状況と今後の見通しについてご説明致します。

※本資料は「優良日本株ファンド〈愛称:ちから株〉」の運用状況について投資家のみなさまにご理解を深めていただくために概略を記載したものです。  
このため、ファンドの商品性、リスク、お申込みメモ等については投資信託説明書(交付目論見書)をご確認いただく必要があります。

## 設定来の年間騰落率の推移

当ファンドの設定来の年間騰落率は、参考指数であるTOPIXに対して、概ねプラスで推移してきました。  
2018年において当ファンドは主に小型株の組入れが高かったことによりTOPIXに劣後しましたが、2019年初来  
では参考指数であるTOPIXを0.6%上回っています(2019年11月末時点)。今後とも、当ファンドの基本  
コンセプトである優良で割安な銘柄を厳選することにより、パフォーマンスの向上に努めて参ります。

(%) (期間: 2009年3月18日(設定日)~2019年11月29日)



	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
当ファンド	22.1%	1.2%	-18.0%	28.4%	78.5%	12.0%	15.0%	-6.8%	35.6%	-25.9%	14.3%
参考指数: TOPIX	19.3%	-1.0%	-18.9%	18.0%	51.5%	8.1%	9.9%	-1.9%	19.7%	-17.8%	13.7%
TOPIX との差	2.8%	2.1%	1.0%	10.4%	27.1%	3.9%	5.1%	-4.9%	15.9%	-8.1%	0.6%

- ・当ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しております。また、当ファンドの騰落率と実際の投資者利回りとは異なります。
- ・参考指数は、当ファンドのベンチマークではありません。また、参考指数は、国内株式の値動きを説明するために表示しています。
- ・2009年の騰落率は2009年3月17日(設定日前営業日)~2009年12月末までの騰落率を使用しており、10,000を起点として計算しています。また、2019年の騰落率は2018年12月末~2019年11月末までの騰落率を使用しています。

■上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。■上記は指数を使用しています。指数については【本資料で使用している指数について】をご覧ください。  
■表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しております。

## 優良日本株ファンド 【愛称:ちから株】

## 足下の運用状況と運用方針

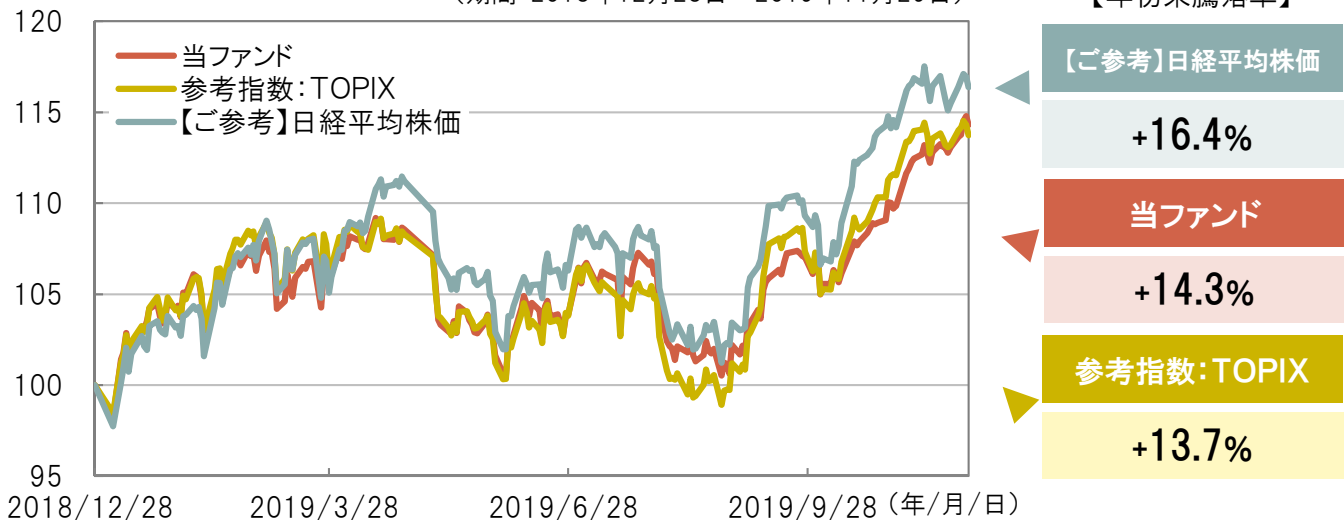
- 足下2019年9月から11月の3か月間では、参考指数(TOPIX)を0.6%下回って推移しました。同期間においては、市場環境が厳しい中でも好調な販売が確認された「トヨタ自動車」、海外におけるスマートフォン向けカメラ部品などの需要回復へ期待が高まった「シャープ」などが、当ファンドの基準価額にプラスに寄与しました。企業価値向上を本格的に図っている大型株の寄与度が増えています。一方、同期間においては、スマートフォン向け新作ゲームアプリで不具合が発生した「ディー・エヌ・エー」、2020年9月期の通期会社計画が市場予想を下回った「サイバーエージェント」などが基準価額にマイナスに影響しました。なお、同期間の当ファンドの投資行動としては、業績面に加え、M&A(合併・買収)の実施による収益性向上や株主還元の拡大に向けた動きにも注目して「Zホールディングス」、「東京建物」などを新規に組み入れる一方で、「信越化学工業」、「京セラ」などを全売却しました。
- 2019年11月29日時点のポートフォリオの規模別構成は、大型株39%、中型株45%、小型株15%(うち東証マザーズ3%)となっています。「Zホールディングス」や「日立建機」など企業価値向上への変革の観点から期待できる中型株の組入比率を引き上げました。足下では、2020年3月期上期決算で業績が底打ちしたとの見方から、外需系企業の組入比率を高めています。
- 調査運用体制の強化を継続しており、当ファンドでは今後も銘柄を厳選しつつ、大型から小型までの規模や業種のバランスを調整し、リターンを追求していく方針です。銘柄を厳選するにあたり、経営面、財務面、収益面等の精査に加え、ESGの観点での分析を強化することにより、より確度が高い銘柄への入れ替えを実施していくことで、中長期的な基準価額(分配金再投資)の向上をめざして運用を継続して参ります。

・市況の変動等により、上記の運用方針通りの運用が行えない場合があります。

## 2019年初来:当ファンドと各日本株指数のパフォーマンス比較

(期間:2018年12月28日~2019年11月29日)

【年初来騰落率】



	1-3月	4-6月	7-9月	10月	11月	9-11月
当ファンド	6.1%	-2.1%	2.2%	3.4%	4.2%	11.8%
参考指数:TOPIX	6.5%	-2.5%	2.4%	5.0%	1.9%	12.4%
【ご参考】日経平均株価	6.0%	0.3%	2.3%	5.4%	1.6%	12.5%

・2018年12月28日=100として指数化。  
 ・当ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を再投資したもとして計算しております。また、当ファンドの騰落率と実際の投資者利回りとは異なります。  
 ・TOPIXは、当ファンドの参考指数です。日経平均株価は、当ファンドのベンチマークまたは参考指数ではありません。また、各指数は国内株式の値動きを説明するために表示しています。

■ 上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。■ 上記は指数を使用しています。指数については【本資料で使用している指数について】をご覧ください。  
 ■ 表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しております。

## 優良日本株ファンド 【愛称:ちから株】

## 今後の市場見通しとファンド・マネジャーの注目点

## 【国内株式市況は相対的に堅調な推移が続く見通し】

世界的に緩和的な金融政策の継続が見込まれるものの、各国の選挙動向や金融政策に左右されやすいマーケット展開が想定されます。そうしたなか国内株式市況は相対的に堅調な推移が続く見通しです。2019年度下期から2020年度にかけての日本企業の業績底打ち期待のなか、企業価値向上の改革も本格化しており、親子上場や株式持ち合いの解消、企業グループの再編が続々と具現化しています。また、追加の大型経済対策も市況の下支え要因になると見込まれます。

## 【減益基調のなか業績底打ち期待】

厳しい外部環境のもと2019年第2四半期の決算発表では、外需系企業を中心に例年以上の通期計画の下方修正がみられました。一方で上期(第1-2四半期)業績の実績は、業種によりますが、市場予想よりも上ぶれして着地する傾向もみてとれます。市場の通期予想値も上方修正が増えているなど、下期から2020年度にかけての業績の底打ち期待が高まっています。背景には、電機・精密などで新たな需要拡大の動きが顕在化する兆しがあること、大型経済対策の効果浸透が見込まれることなどがあります。

## 【経営戦略の変化、構造改革に注目】

上記のような環境下、企業価値向上を目的とした経営戦略の変化に継続して注目しています。特に、親子上場や株式持ち合いの解消、企業グループの再編などの動きは株価上昇の大きな材料となる場合が多く、これらガバナンス改革の実行が期待される銘柄の発掘に一層注力していく方針です。企業グループの構造改革や大胆な経営判断の動向分析などは、当ファンド運用チームのリサーチの強みが存分に活かされるポイントだと考えています。

・市況の変動等により、上記の運用方針通りの運用が行えない場合があります。

## 注目点：経営戦略の変化・構造改革の一例

銘柄コード	銘柄名	概要	公表日
4689	Zホールディングス	LINEとの経営統合を公表	2019年11月18日
7259	アイシン精機	2020年4月を目処にアイシン・エイ・ダブリュの合併を決定 (従来、アイシン精機58%、トヨタ自動車42%)	2019年10月31日
6501	日立製作所	傘下の日立オートモティブシステムズが本田技研工業系の 部品会社と経営統合	2019年10月30日
6702	富士通	経営方針説明会「富士通の成長に向けて」でグループの枠を 超えるビジネス展開を公表	2019年9月26日
6758	ソニー	保有するオリンパス株すべてを売却する方針を決定 (約800億円)	2019年8月29日
4502	武田薬品工業	「株式価値の創出とシャイアー社の統合完了にフォーカスした 2019年度の当社業績評価指標(KPI)について」を公表	2019年7月31日
7752	リコー	クラウド型・オンプレミス型コンテンツサービスプラットフォームを 開発・販売するドキュウェア社の全株式取得合意を公表	2019年7月2日

(出所)各社資料等を基に三菱UFJ国際投信作成

・上記は、2019年11月末時点の組入銘柄から、経営戦略の変化・構造改革の一例を紹介するために銘柄紹介をしたものです。したがって、個別銘柄の推奨を目的とするものではなく、当ファンドにおいて上記の銘柄を今後も組み入れることを保証するものではありません。

■上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。

## 優良日本株ファンド 【愛称:ちから株】

## 当ファンドの基準価額にプラス寄与した上位4銘柄(2019年8月末-11月末)

2019年11月29日の当ファンドの基準価額(分配金再投資)(32,026円)は8月30日(28,635円)から+11.8%でした。

■プラス寄与した銘柄:50銘柄/当該期間で組入れた銘柄全68銘柄

各銘柄の株価(期間:2018年12月28日~2019年11月29日 単位:円)



・コメントは作成時点のものであり将来予告なく変更されることがあります。・上記は当ファンドの理解を深めていただくため、2019年8月30日から2019年11月29日において当ファンドの基準価額にプラス寄与した上位4銘柄を紹介したものです。したがって、個別銘柄の推奨を目的とするものではなく、当ファンドにおいて上記の銘柄を今後も組み入れることを保証するものではありません。・上記の時価総額別表記は、東京証券取引所によるものです。・基準価額(分配金再投資)は、1万口当たりであり、運用管理費用(信託報酬)控除後の値です。・信託報酬率は、後記の「ファンドの費用」に記載しています。・基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものとして計算しています。(出所)Bloombergのデータ、各社資料等を基に三菱UFJ国際投信作成

■上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりません。■表示桁未満の数値がある場合、基準価額(分配金再投資)は切り捨て、その他は四捨五入で処理しております。

## 優良日本株ファンド 【愛称:ちから株】

## 当ファンドの基準価額にマイナスの影響を与えた上位4銘柄(2019年8月末-11月末)

■ マイナス影響を与えた銘柄:18銘柄 / 当該期間で組入れた銘柄全68銘柄

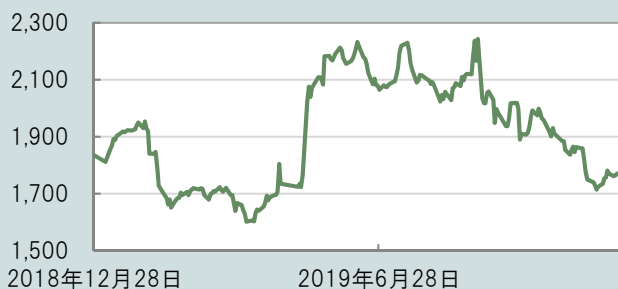
各銘柄の株価(期間:2018年12月28日~2019年11月29日 単位:円)

2432 ディー・エヌ・エー

中型株

寄与度 -0.44%

- 主力のゲーム事業に加え、スポーツ事業などを展開。2019年7-9月期決算の内容が市場予想を下回ったことや、スマートフォン向けゲームの新作タイトルで不具合が発生し、売上拡大に停滞感が見られたことなどから株価は下落。
- 今後は新機能の追加などによる既存タイトルの売上再加速に期待。

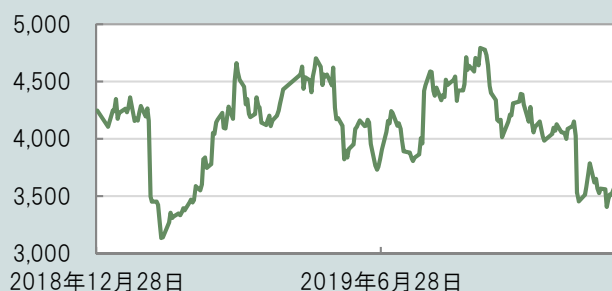


4751 サイバーエージェント

中型株

寄与度 -0.31%

- インターネット広告、ゲーム、メディアの3事業を柱とするインターネット企業。メディア事業で手掛けるAbemaTVに注目。2020年9月期の通期会社計画が市場予想を下回ったことなどから株価は下落。
- メディア事業では先行投資による赤字が続いているが、視聴者数の順調な拡大により収益力の強化に取り組む方針で、今後の収益貢献に期待。



3436 SUMCO

中型株

寄与度 -0.23%

- 半導体用シリコンウェーハ製造・販売大手。顧客である半導体メーカーのウェーハ在庫が高水準にあることを受け、来期以降の販売回復への期待が後退したことなどから11月上旬以降、株価は下落。
- 中期的には自動車の電装化や5G通信などを背景に半導体用シリコンウェーハの需要は成長が見込まれるため、今後の業績再成長に期待。

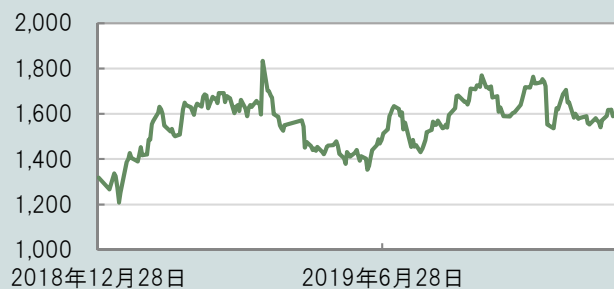


2157 コシダカホールディングス

小型株

寄与度 -0.12%

- カラオケ事業及び女性向けフィットネスのカーブス事業を主力とする総合余暇サービス提供企業。2019年6-8月期のカーブス事業が営業利益で前年同期比減益となったことなどが嫌気され、当期間において株価は下落。
- カラオケ事業のシェア拡大などによる業績成長への期待は変わらないものの、他銘柄との相対的な投資魅力度の観点から、当期間において全株売却。



・コメントは作成時点のものであり将来予告なく変更されることがあります。・上記は当ファンドの理解を深めていただくため、2019年8月30日から2019年11月29日において当ファンドの基準価額にマイナスの影響を与えた上位4銘柄を紹介したものです。したがって、個別銘柄の推奨を目的とするものではなく、当ファンドにおいて上記の銘柄を今後も組み入れることを保証するものではありません。・上記の時価総額別表記は、東京証券取引所によるものです。

(出所)Bloombergのデータ、各社資料等を基に三菱UFJ国際投信作成

■ 上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。■ 表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しております。

## 優良日本株ファンド 【愛称:ちから株】

## 【ご参考】想定する日経平均株価水準

## 為替・PER(株価収益率)水準からの日経平均株価予想(円)

(2019年11月29日時点)

- 日経平均株価の2020年度の見通しは19,400円から24,900円を想定します。

※日経平均株価は当ファンドのベンチマークまたは参考指数ではありません。

- 前提は日経平均株価の予想PERで11.0倍～13.0倍、為替は103円～113円/米ドルとしています。予想PERが13.0倍、113円/米ドル等の前提が整った場合、日経平均株価は24,900円程度の水準を想定、予想PERが11.0倍、103円/米ドル等を前提とした場合では、日経平均株価は19,400円程度の水準を想定します。

		2020年度予想			
		PER11倍	PER12倍	PER13倍	PER14倍
為替レート	98円/米ドル 110円/ユーロ	18,600	20,300	22,000	23,700
	103円/米ドル 115円/ユーロ	19,400	21,200	23,000	24,700
	108円/米ドル 120円/ユーロ	20,300	22,100	23,900	25,800
	113円/米ドル 125円/ユーロ	21,100	23,000	24,900	26,900
	118円/米ドル 130円/ユーロ	22,000	24,000	25,900	27,900

・日経平均株価予想＝一株当たり純利益×PER(株価収益率)

※「一株当たり純利益」は2020年度の三菱UFJ国際投信の予想値を使用(2019年11月29日時点)

## ファンド・マネジャーのコメント

当ファンドは、おかげ様で2019年に設定から10年超の運用実績となりました。その間、リーマン・ショック直後や東日本大震災の混乱期、様々な局面を経ながら主担当として当ファンドの運用に取り組んで参りました。常に意識しているのは、大型から小型までの規模や業種等のバランス等を考慮することによる、リスクコントロールと中長期的な基準価額の向上です。運用体制の拡充のもと、銘柄分析力等をより強化し、運用力の向上を図っていきます。

2019年度において、当社は株式運用部の組織を再編しました。各運用チーム(バリュー・グロス・スモール)を融合してリサーチを協業、海外株式グループとも一段と連携のうえ幅広く効率的な情報分析の連携を志向しています。パフォーマンス不振を踏まえての対策として、中小型保有銘柄の再精査・新規発掘、経営の変化等の大局的なアプローチ等を一段と強化します。加えて、従来の財務情報だけでなく、環境・社会・ガバナンスに対する企業の取り組みを考慮するESG投資への注目度が高まっている環境下、企業リサーチにおいてESGの観点を強化することで、中長期の分析力向上を図る方針です。

・市況の変動等により、上記の運用方針通りの運用が行えない場合があります。



ファンド・マネジャー  
野崎 始 Hajime Nozaki

本資料で使用している  
指数について

■ 東証株価指数(TOPIX)、日経平均株価

本資料中の指数等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。また、発行者および許諾者が指数等の正確性、完全性を保証するものではありません。各指数等に関する免責事項等については、委託会社のホームページ(<https://www.am.mufg.jp/other/disclaimer.html>)を合わせてご確認ください。

- 上記は、過去の実績・状況または作成時点での見直し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。
- 上記は指数を使用しています。指数については【本資料で使用している指数について】をご覧ください。
- 算出時点によって結果も異なる点にご注意ください。

## 優良日本株ファンド 【愛称:ちから株】

## ファンドの目的・特色

## 【ファンドの目的】

わが国の株式を実質的な主要投資対象とし、競争力のある優良企業の株式の中から、割安と判断される銘柄に投資することにより、値上がり益の獲得をめざします。

## 【ファンドの特色】

- わが国の株式を実質的な主要投資対象とし、信託財産の成長をめざします。
  - 株式の実質組入比率は、原則として高位を保ちます。
- 競争力のある優良企業の株式の中から、割安と判断される銘柄(ちから株)を厳選して投資します。
  - 銘柄選定にあたっては、株価の割安度等に着目して30~50銘柄程度に投資を行います。
  - 実際の運用にあたっては、主に優良日本株マザーファンドを通じて投資を行います。

## 競争力のある優良企業とは

業界内のシェアや株主還元、財務の健全性等の観点で、相対的に評価が高いと委託会社が判断する企業をいいます。

市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。

## 投資リスク

基準価額の変動要因: 基準価額は、株式市場の相場変動による組入株式の価格変動等により上下します。また、組入有価証券等の発行者等の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の影響を受けます。これらの運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。投資信託は預貯金と異なります。主な変動要因は、価格変動リスク、信用リスク、流動性リスクです。上記は主なりリスクであり、これらに限定されるものではありません。くわしくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

## 本資料のご利用にあたっての注意事項等

■本資料は三菱UFJ国際投信が作成した情報提供資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。■本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。銀行等の登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の補償の対象ではありません。■投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。

## ファンドの費用

## ◎お客さまが信託財産で直接的に負担する費用

購入時	購入時手数料	購入価額に対して、 <b>上限3.3%(税抜 3%)</b> 販売会社が定めます。 くわしくは、販売会社にご確認ください。
換金時	信託財産留保額	ありません。

## ◎お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

保有期間中	運用管理費用(信託報酬)	日々の純資産総額に対して、 <b>年率1.1%(税抜 年率1%)</b> をかけた額
	その他の費用・手数料	以下の費用・手数料についてもファンドが負担します。 ・監査法人に支払われるファンドの監査費用 ・有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料 ・有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用 ・その他信託事務の処理にかかる諸費用等 ※上記の費用・手数料については、売買条件等により異なるため、あらかじめ金額または上限額等を記載することはできません。

※運用管理費用(信託報酬)および監査費用は、日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。毎決算時または償還時にファンドから支払われます。※上記の費用(手数料等)については、保有金額または保有期間等により異なるため、あらかじめ合計額等を記載することはできません。なお、ファンドが負担する費用(手数料等)の支払い実績は、交付運用報告書に開示されていますのでご参照ください。  
<課税関係>課税上は、株式投資信託として取扱われます。個人投資者については、収益分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の譲渡益に対して課税されます。NISA(少額投資非課税制度)およびジュニアNISA(未成年者少額投資非課税制度)の適用対象です。税法が改正された場合等には、変更となることがあります。

## ●設定・運用は



三菱UFJ国際投信

三菱UFJ国際投信株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号  
加入協会: 一般社団法人投資信託協会  
一般社団法人日本投資顧問業協会

お客様専用  
フリーダイヤル **0120-151034**  
(受付時間/営業日の9:00~17:00)

●ホームページアドレス: <https://www.am.mufg.jp/>

## 優良日本株ファンド 【愛称:ちから株】

## 販売会社情報一覧表

投資信託説明書(交付目論見書)のご請求は下記の販売会社まで

(2019年12月2日時点)

商号	登録番号等	日本証券業協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融 商品取引業 協会
株式会社阿波銀行	登録金融機関 四国財務局長(登金) 第1号	○			
株式会社イオン銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金) 第633号	○			
auカブコム証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第61号	○		○	
株式会社SBI証券	金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第44号	○		○	○
岡三オンライン証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第52号	○	○	○	
おきぎん証券株式会社	金融商品取引業者 沖縄総合事務局長 (金商)第1号	○			
株式会社沖縄海邦銀行	登録金融機関 沖縄総合事務局長 (登金)第3号	○			
株式会社紀陽銀行	登録金融機関 近畿財務局長(登金) 第8号	○			
株式会社京葉銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金) 第56号	○			
株式会社筑波銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金) 第44号	○			
東海東京証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長(金商) 第140号	○		○	○
株式会社栃木銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金) 第57号	○			
株式会社鳥取銀行	登録金融機関 中国財務局長(登金) 第3号	○			
フィデリティ証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第152号	○			
株式会社北陸銀行(インターネット専用)	登録金融機関 北陸財務局長(登金) 第3号	○		○	
三菱UFJ信託銀行株式会社	登録金融機関 関東財務局長(登金) 第33号	○		○	
株式会社山梨中央銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金) 第41号	○			
楽天証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第195号	○	○	○	○

## WEBサイトのご案内

当ファンドに関するメディア掲載情報等を  
ホームページに掲載しております！

今すぐ  
CHECK!



メディア掲載・セミナー情報等

